

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491200317		
法人名	有限会社 ペイント・プランニング		
事業所名	グループホーム田園		
所在地	宮城県登米市豊里町内町浦36		
自己評価作成日	令和2年1月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2020年2月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の生活歴・趣味・個々の特性を把握し、それぞれが今出来ること・今したいことを日常生活活動の中で行って貰う事で、自分の役割を持ち、必要とされている充実感や生きがいに繋がるような機会をたくさん持つように支援している。又季節の行事を大切に、外出や外食などの機会を多く持ち、地域の高齢者との交流会、認知症カフェに参加することで、グループホームの存在や認知症の方と関わることで認知症について知って貰える機会を作る努力をいっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

遠く栗駒山を望み、旧北上川沿いの田園風景の広がる場所に、地元企業が開設して3年目の1ユニット平屋建ての事業所である。理念は「常に気遣い 寄り添い 支え合い」とし、利用者、家族の思いに寄り添った支援に努めている。職員は、一人ひとりの利用者が生きがいを持って生活できることを目指して作成された介護計画に添って、日々状態を確認しながらケアに努めている。利用者は自治会の敬老会、収穫祭など地域の行事にも職員と一緒に参加しており、運営推進会議には民生委員や老人クラブの会長が参加し、地域の情報が提供され、地域住民へのホーム行事案内配布を依頼している。また、利用者はさんま祭りなど季節ごとに行う行事に合わせ、郷土料理も楽しんでいる。職員は、四季折々のお花見や家族との外食、自宅への外泊、墓参りなどができるように支援に努めている。毎週、訪問看護師が来訪し健康管理を行い、かかりつけ医の受診は職員が同行しており、情報共有や連携体制もできている。管理者は職員との信頼関係構築に努め、資格取得も本人の希望が実現できるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホーム田園 ）「ユニット名」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人一人が理念に基づき、入居者様に接するよう努めている。ミーティングでも理念を再確認している。	理念は「常に気遣い 寄り添い 支え合い」で常に目につくよう玄関に掲示し、毎月ミーティングで確認を行い、日々の支援に繋げている。家族のように利用者に寄り添いながらも、節度を持って接している。常に理念を意識し、介護計画作成にも反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに参加したり、地域のボランティアに来所してもらい交流を図っている。当施設の畑で取れた野菜を近所の方に配ったりしている。	区長が運営推進会議に参加しており、利用者は地域主催の敬老会、収穫祭、老人クラブのカラオケ大会などに参加している。地域の認知症カフェにも利用者と管理者が一緒に参加している。近所にホームで収穫した、さつま芋や芋煮会のおすそ分けをしたり、交流を深めている。ホーム行事を地域に案内するなど交流を深める取り組みを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の収穫祭やイベントに参加することにより、地域で生活する住民と認知症の入居者様と交流する機会を持ち、理解を深めてもらえるよう活動をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当施設の現状や問題点を報告し、質問や助言を頂いたものは、当施設のサービス提供を見直し、改善に向けて、取り組んでいる。	2ヶ月に1回、市職員、地域包括職員、民生委員、老人クラブ会長、区長、家族、利用者、職員が参加し開催している。ホームから利用者の状況、行事、ヒヤリハットなどの報告を行い、意見交換をしている。参加者から、ゴミの出し方について意見が出され、地域清掃などの案内もあり清掃活動への参加に繋がった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの研修の案内には管理者・職員が参加し、サービス提供に役立っている。運営推進会議にて、施設の状況を報告し、助言や確認などを行っている。	市職員が運営推進会議に参加し、ホームの実情を理解している。法改正後の内容確認、生活保護の手続き、まもりーぶの利用など報告や相談をしている。水害・原発時の避難ルートなどについて、アドバイスを得ている。市から研修案内もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングで入居者様の課題を話し合う際、身体拘束について再確認している。又、ご家族には入居の際に説明、同意を得ており、身体拘束をやむを得ず行う場合にも必ずご家族に説明し、同意を得てから行っている。夜間を除き玄関の施錠は行っていない。	マニュアルを作成し研修も行っている。職員は声のトーンや話し方に注意しケアに繋げている。外出要求が強い利用者について、近隣住民の理解を得ている。防犯上、玄関の施錠は18:30～5:00までで、感知器も設置している。利用者の転倒防止のため、家族から承諾を得て離床センサーを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや日々の申し送りで入居者様の状態を把握しており、各自の行動に責任を持って業務にあたっている。虐待などの行為が起こらないように職員同士で連携して対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会や地域包括支援センターなど関係者との連携を持ち、なんでも相談できる関係を築けるように努力している。又、相談した内容や助言などは日々の申し送りやミーティングで職員に周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に家族に説明し同意を得てから契約書に署名を頂いている。契約内容の変更や改定の際は、ご家族に説明し、同意書に署名を頂き管理をしている。不安や疑問などは随時お話を伺い対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方が来訪時には現況を報告し、その都度ご家族の気持ちをお伺いしている。問題が発生した場合は、ご家族に連絡し、説明させて頂き、理解して頂けるように努めている。運営推進会議などで報告、助言をもらうなどしている。	運営推進会議に家族が参加しており、出された意見を運営に反映している。来訪時に利用者の状態を報告し、意見・要望を聞く機会としている。遠方の人には請求書と一緒に毎月の広報紙や個別の写真を添えて、状況を手紙にし報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の活動やミーティングなどで職員からの提案や意見などを伺うようにしており、検討・話し合いの上、日々の介護に反映している。	毎月のミーティングや日々の申し送りの際に意見を聞いている。日常的にも管理者は職員が要望を出すことができるよう配慮している。職員の意見からケース記録の入力を統一した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に研修や資格取得の支援などを行い、スキルアップすることで意欲的に仕事ができるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の参加・病院受診・認知症カフェなど多職種との関係を持つことで情報や知識を得る機会を設けている。個々のスキルアップに繋がるように環境づくりに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の介護関係事業者と月に1回の情報交換、認知症カフェ開催の為の会議などを行っている。認知症カフェには入居者様も参加するなど様々な情報を得て、施設のサービスに反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の不安をなるべく軽減できるように本人の現在求めている支援は何かを把握し、本人の現在できることはしてもらいながら、役割を持ち、自分の居場所を作り、安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設入所について家族の不安や要望を伺う機会を持ち、いつでも相談できる環境を整えている。施設に早く馴染めるように支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族様がその時望まれているサービスを把握するように努め、グループホームのサービスや病院・訪看との医療連携で体調管理や緊急時対応を密に行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者様は共同生活する仲間と捉え、日々の掃除、食事、洗濯物畳み、畑仕事などの家事を手伝って頂けるように取り組んでいる。入居者様個々の出来る事を把握し、一緒に取り組んでもらえる環境づくりをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方の来所時には本人の現況を報告し、請求書を送る際には一緒に手紙を同封し、本人の現況や問題点を話させて頂き、本人が快適に過ごせるようにご家族の方と話し合いをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の時の時間を大切に頂き、楽しい時間を過ごしてもらえるように環境の提供や一緒に写真を撮り、思い出作りに繋げている。	入居時に、馴染みの人や場所を把握し関係継続の支援をしている。墓参りや外出に出掛けたり、自宅に外泊する人もいる。来訪者と写真を撮り、部屋に飾るようにしている。理・美容は職員の知人の理容師が2ヶ月に1回来ており、以前の習慣で毛染めをする人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人一人が出来る事を把握し、日常の家事やレクリエーションを通して、入居者様同士が助け合える環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所者については家族や入所施設などからの問い合わせや相談には対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の日常会話や行動から本人の想いや要望をくみ取るようにしており、外出や食事に反映している。	入居時に、生活歴や趣味などを把握している。日常的には、日頃の行動や仕草、会話から思いをくみ取っている。編み物などの以前からの趣味を継続できるように支援している。食事についての要望が多く、外食に出掛けたり、行事食の献立に反映し、希望が叶えられるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活の中で日常的に行ってきたことや趣味などを把握し、施設の生活の中で今まで行ってきたこと活かせる環境づくりに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	趣味・今行っていることなど一日の流れを把握し、施設の生活の中で継続して行けるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一緒に生活することで気が付いたことなど職員で月1回ミーティングでモニタリングをしていることをもとに、アセスメントをして介護計画に結び付けている。状態の変化に伴い、家族と話し合いを行い、介護計画の変更をし、支援している。	職員は利用者の日々の暮らしの中から思いを把握し、アセスメントに反映させ生きがいを持って過ごせるよう介護計画を作成している。ミーティングで更新又は変更を検討し介護計画を作成している。状態が変化した場合は都度、見直している。日々の変化は申し送りノートで情報共有し、特に薬の変更には注意している。家族から、リハビリをし布パンにして欲しいなど、要望があり状態を把握しながら介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を記録し、職員間で毎日申し送りをして、個々の情報交換をし、支援に結び付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	健康状態や精神状態の悪化に伴い、施設での生活に支障をきたすようになった場合を考えて、医療・訪看・老健などの多職種との連携を行い、本人にとって最善の方法を支援するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設での生活では施設と地域資源と関係を取ることで個々の生活に繋がられるように支援をしている。認知症カフェなどを通し、多職種や地域包括支援センターとの連携を密に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には協力医療機関をもとに病院受診を行い、担当医とは入居者様の状況・問題点などを密に相談できる関係づくりをしている。	協力医療機関をかかりつけ医としている人が多い。受診は基本職員が同行しており医師とのコミュニケーションを図っている。月1回、往診医がかかりつけ医で、訪問診療を受ける利用者もいる。週1回、訪問看護師が来訪し健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携で週1回訪問看護を利用しており、入居者様の状態・問題点などを密に相談しており、関係づくりも出来ている。緊急時の対応もしてもらい、主治医との連携などについても助言をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院の訪問に頻回に行き、現在の状況・状態を確認したり、聞き取りで把握し、その情報をご家族に報告している。退院時も病院関係者と連絡を密に取り、スムーズに退院できるように連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したり、終末期について施設での生活が困難になった時、次の施設入所検討などの説明を行っている。延命治療については入所の段階で説明し、同意を頂いてから家族・本人の意向を確認書に署名して頂いている。	入居時に事業所のできることを、できないことを説明し、本人・家族の意向を聞き同意書を作成している。緊急時は救急搬送を行い、家族に連絡することとしている。看取りは行っていない。終末期対応は今後の課題としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時・事故などの場合、緊急搬送・救急車の手配など迅速な対応を行っている。緊急時、本人の情報が直ぐに説明できるように緊急持ち出し書類を準備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年2回行い、地震・水害の訓練もミーティングを通し行っている。原発訓練は県の方針に沿って、避難先の施設と契約を交わし、避難先にも職員・入居者様全員で避難経路を確認する為伺っている。	年2回、火災時の避難訓練を行い、内1回は夜間想定で実施している。年1回、消防署が立ち合い実施している。地震、水害時の避難訓練も行っている。原発避難訓練は県の方針に添って避難先の施設と協定を結んでおり、避難ルートの検証も行っている。オール電化のため発電機の準備もしており、非常用備蓄も3日分用意している。	避難訓練に、地域住民の参加を得られるよう取り組むことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の個性を把握し、今までの生活歴や本人の人格を損なうことなく尊重し、声掛けや言葉遣いには気を付けて対応している。家族のような関係性を保ちながらも	年1回、プライバシー保護の研修を実施し職員間で共有し共通理解に努めている。声掛けや言葉遣いでスピーチロックにならないように、声のトーンで不快を感じないように配慮している。呼び方は「さん」付けで呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	危険を伴う行動や発言以外は施設として出来る範囲で本人の意向に添えるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	急な対応や職員の配置上で無理のない範囲で本人の希望に沿って過ごしてもらえるように支援している。相手を否定する対応をしないように気を付けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に洗面・整容の支援を行っており、洗面・整容の維持が出来ない方には職員が清潔な状態を保てるように手助けをしている。女性の希望者には白髪染めを行い、2ヶ月に1回はボランティアの美容師さんに低価格で散髪して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みを把握し、日常会話などから食事のメニューを反映させたりしている。行事食やお祝い食など入居者様に喜んで頂けるようおやつも含め工夫している。食事の準備や片付けは常に一緒になって行っている。	その日の冷蔵庫にある食材などから、職員が献立を決め調理している。食材は週1回の宅配と、地元のスーパーで地産地消を意識し購入している。日々の献立は記録しているが、栄養士のアドバイスは受けていない。月1回以上、正月、ひな祭り、母の日、父の日、サンマ祭りなどの行事食を楽しみ、外食にも出掛けている。誕生会にはケーキを手作りして祝っている。	彩も良く美味しい食事を提供されているが、栄養士等の指導助言を受けられることを期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高血圧・糖尿病など個々の病状に応じて、水分量や食事量を調整している。又、個々の食事・水分摂取量を記録し、管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前に口腔体操をおこない、唾液の排出を促すと共に、毎食後口腔ケアの準備や声掛けをしており、清潔で快適な生活が送れるように支援している。必要な際は歯科受診も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態、排泄のパターンなどを把握し、清潔で快適な生活が送れるように定期的な声掛けやトイレ誘導を行っている。	排泄状況はケース記録で確認し、声掛けしてトイレ誘導を行っている。夜間は3時間ごとに巡回し、一人ひとりの状態に合わせてトイレ誘導などを行っている。歩行が安定しない状態の時には、夜間帯にポータブルトイレを使用している。便秘予防のため食事に牛乳やヨーグルトを取り入れている。医師に薬を処方されている人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分摂取、排便の状態を毎日記録しており、ミーティングでも排便の状況を話し合う機会を持っている。状態によっては整腸剤などの薬を処方してもらったりして定期的な排泄が出来るように支援している。又朝の掃除やリハビリなどを行い、体を動かす機会を作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前中の暖かい時間に行い、1日置きに入浴している。又本人の状態により入浴したがない場合は無理に進めるようなことはせず、本人の意向に沿うように対応している。季節のお風呂を大切にしており、ゆず・リンゴ・お花など目で見て楽しんで頂ける工夫もしている。	入浴は1日置きとし午前中を基本にしているが、夕方の希望にも応えている。拒否がある時には無理強いせず、時間を置いたり声掛けを工夫したり、日にちを変更して対応している。柚子、りんご、バラなどの花を利用して季節を感じ楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後はお昼寝の時間を取り、休んでもらっている。夜間帯は排尿の回数が多い方、歩行が不安定な方など居室にポータブルトイレを置き、安眠できるように配慮している。又、安眠できるように居室内の湿度・温度の調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自のお薬袋があり、施設で管理し、服用の際には注意をし対応している。個々のお薬の情報は1つのファイルに保管し、職員がいつでも確認できるようにしている。お薬の変更の際は、申し送りや申し送りノートに記入し、職員が周知できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野や趣味を把握し、なるべく自分で出来ることを継続して行って貰えるように準備し、評価してもらえらることで自信とやる気に繋がるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の要望に沿って、猛暑や天候が荒れている冬などを除き、出来る限り外出の機会を持ち、付き添いを行っている。又季節の行事を大切にしており、その季節ごとの花を見学にいったり、外食をしたり、地域の方との交流の為、みんなで外出する機会を持っている。	本人の希望に添って地域の敬老会、老人クラブのカラオケ、認知症カフェに出掛けている。外食の希望も多く、回転ずしやファミレスなどにも全員で出掛けている。食材の買い物と一緒に出掛ける利用者もいる。季節ごとに花が楽しめるよう考慮し年間計画を組むように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理している方は少ないが、使った後は金額を確認できるようにノートに記帳してもらい、トラブル防止に努めている。又施設で立替で買い物が出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って、電話をかけたり、手紙を投函してあげたりしている。又、手紙が書けない方は請求書を送る際に本人の要望を代筆して伝えるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に湿度や温度管理を行い、快適に過ごせるように支援している。又、季節の飾りを職員と入居者様で作成し、ホール・廊下・各居室に飾らせて頂き、楽しい空間づくりに心掛けている。	ホールは3面が窓で、明るく清掃が行き届いている。温・湿度は職員が調整し管理している。廊下は広く運動する場所としても最適で、収納畳敷きベンチが3個置かれており団らんの場所にもなっている。ホールにはこの間作ったつるし雛や壁画が飾られ、季節を感じたり、癒しの空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の席が決まっており、なかなか移動することはないが、各自の居室に呼び込み話をしたり、廊下にある長椅子に座り、外を見ながら会話をされたりお互いの空間の共有が出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の段階でご家族に本人の愛用しているものや慣れ親しんだものを持参して頂くように説明させて頂き、本人の過ごしやすい環境づくりをしている。家族の写真や入所後作成した作品を飾ったりしている。	エアコン、ベッド、収納庫が備え付けである。各自テレビ、写真、位牌などを持ち込み『私の部屋』を作っている。居室入り口に表札と、カラフルな暖簾があり識別しやすいよう配慮している。居室の位置も考慮し、温度差が起きないように職員が点検、調整している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールと廊下を広めにとり、歩行に支障がないように配置されており、廊下には2か所長椅子を設置し、座って入居者様同士が会話したり、休んだりする場を作っている。		